

平成 22 年度第 1 回 TMT 推進小委員会議事録
(2011 年 3 月 4 日承認)

2010 年 12 月 28 日 (火) 13:00-16:30

於：国立天文台・三鷹・大会議室

出席者 台外委員：伊藤、大内（ヒロ）、岡本、川端、土居、長尾、山田

台内委員：井口、柏川、小杉、田村

Ex officio：家（TMT プロジェクト室長）

臼田（ヒロ）（TMT プロジェクト）

山下（光赤外専門委員長、TMT プロジェクト）

欠席者 秋山（台外委員）、宮崎（台内委員）

1. 委員会名簿(資料あり)の確認
2. TMT 推進小委員会設立の経緯と趣旨説明
山下光赤外専門委員会委員長（国立天文台）より、委員会設立の経緯と主たる目的が紹介された（資料あり）。
3. 委員長・幹事の互選
互選により、当委員会委員長として山田委員（東北大学）、幹事として柏川委員（国立天文台）を選出した。議事録書記に関しては、次回までに検討。
4. TMT プロジェクトの現状報告
家 TMT プロジェクト長より TMT 計画の現状についてのまとめ（資料あり）、臼田氏（国立天文台・TMT プロジェクト）より装置計画についての現状の紹介（資料あり）、柏川委員より TMT-SAC の議論について紹介（資料あり）があった。

（委員よりコメント）

- TMT Corporation の組織図を知りたい
各国組織（プロマネがコントロールできない）との関係
ALMA では 3 カ所と JAO(現地)にプロマネを置いて 4 人で協議しつつ進めた
Director はいないのか？ Board の議長は Henry Young
- 「第 2 期」装置という呼称は、概算要求上からも適当ではないのではないか
- 予算計画にどのように装置計画を組み込むのか、明確でない
第二期観測装置の選定・製作スケジュールと予算の整合性は？
- 観測装置の GSMT, E-ELT との比較は？
（プロジェクトよりコメント）
- パートナー間のビジネスプランの調整が進んでおり、今後、分担が確定することに合わせ、装置の予算計画も具体的に考える。

- 先行パートナーから提案されているプレミアムファクターについての議論が必要
- TMT SAC で進行中の議論は、第 2 期装置の選定、観測所運用プランについて、などが大きな話題。いずれも、日本の要望を SAC の議論に反映させたい。

5. 議論

① TMT 推進小委員会に期待される役割

今回は委員会発足なので、順に意見を出し、これをもとに次回により明確な形で規定することを目指す。出された意見は、次の通り。

- 日本の Science Working Group の報告
 - 第 1 期と第 2 期装置で分けてのサイエンスの議論も必要
- 日本の装置 Working Group の報告
 - 第 2 期装置の決定方針について早急に議論したい
 - 第 1 期装置にどのように絡んでいくかを考えたい
- 運用期における様々な機能・方針を議論する
- 装置のレビュー 装置検討委員会との連携
- 本委員会の開催頻度：
 - プロジェクト進捗の中で対応する機会を逃さずに議論が必要
- 大学がどうかかわるのか
- データアーカイブ体制の構築を推進
- プロジェクト推進のための体制：大学の参加をどのように促進するか
- 装置推進体制の促進：大学との連携を進める方策を考えるべき
- コミュニティへの展開（本委員会の委員がコミュニティへの窓口となる）
- サイエンス検討会の活動（白書 11 年 3 月でひとくぎり）
 - この委員会がひきつづき活動を推進・継続すべき
- 予算前の 国内 SAC としての役割
- プロジェクトと協力し相補的に広報活動を行う
- マネジメントチェック
- 予算要求に向けてのサポート ロビー活動（ALMA 推進委員会を参考に）
- サイエンスの明確化、フィードバック
- SPICA との関係独自性 日本の大型計画の在り方、すばる将来計画との関連

プロジェクト側からの期待

- 日本のプロジェクトとしてのアピール
- パートナー間 MOU(覚え書き)のチェック プレミアファクター
- SPICA など日本の大型計画、すばる将来計画との関連
 - TMT 推進のための独自色

議論における論点のひとつとして、

- 分割望遠鏡計画である TMT 計画を推進する上で、関連分野の知見を持つ委員の追加をしてはどうか

という提案があった。これについては、委員回終了後にメール持ち回りでの意見交換もあり、次回以降の当小委員会でさらに議論することとする。

② 委員会開催の頻度

(コメント)

プロジェクトの必要に合わせて開催時期を考えるのがもっとも有効ではないか

(関連するスケジュール)

1月18-21日 TMT Cost Review

1月27日 TMT Board

2月前半まで サイエンス WG 成果とりまとめ

3月31日-4月1日 TMT SAC 第2期装置選定の議論

4月18-19日 TMT Board MOU 締結(4月、および7月で決定 → NSF proposal)

SAC, Board の重要議題に合わせ、当面、3月初旬および4月初旬に、2回 TMT 推進小委員会を開催することで合意。

次回 3月4日(金)(予備:3月14日(月))

次々回 4月12日(火)(予備:4月5日(火))

③ 次回委員会の議題、次回委員会に向けての準備

TMT プロジェクトの組織構成 (organization ガバナンス構造)を紹介

(家さん AI)

今回は、次の3点を主要議題とする。

(あ) TMT プロジェクトの進捗・現状の理解

今回は、望遠鏡(光学レイアウト、鏡、構造など)に焦点をあてる。

プロジェクトが適当な担当を人選(家さん AI)。

(い) パートナー間のビジネスプランの調整と役割分担(タムシートの議論)、これら

を含む推進体制についてのパートナー間の覚え書き(MOU)についての議論

現状の案について、委員会に回覧(家さん AI)

(う) 第2期装置の選定について

TMT・SAC での議論に向けて、当委員会からの議論をプロジェクトにインプットするための議論

そのほか、挙げられた論点として

(え) サイエンス検討会の検討結果の吟味

TMT Science Workshop のプロモート、人選（進行中）次回委員会ではすでに済

(お) 日本の大型将来計画における位置づけ、独自性
などがある。

(以上敬称略)